

# DoKoネット 24

理工会報

Sep.2016

関係各位のご尽力・ご協力のお陰で理工会東京支部が発足しました。下の写真は、同窓会活動の新旧の建物を紹介しています。新たに東の活動の場としての同志社大学東京サテライト・キャンパスの入るビル、現在理工会事務局（本部）の入る建物、それにかつての紫工会、工学部同窓会時代の建物を紹介しています。

なお、同志社大学東京サテライト・キャンパスは、東京都中央区京橋2丁目7番19号 京橋イーストビル3階にあり、JR 東京駅八重洲南口から徒歩6分の至近距離にあります。

写真提供：日本土地建物株式会社、今出川広報課

東京サテライト・キャンパス



東京支部

京田辺キャンパス  
理化学館



現在の同窓会本部

今出川キャンパス  
ハリス理化学館



同窓会かつての拠点

理工会東京支部 支部長就任挨拶

理工会東京支部 支部長 奥出 聡

東京支部発足記念号

東京支部発足の経緯 理工会東京支部 発起人代表 片桐 陽

ようやく叶った東京支部発足 小原 肇

「DoKoネット」にみる理工学部同窓会の東京支部設立への思い

理工会幹事 森本 護

高機能微粒子研究センター

センター長 白川 善幸



Greetings

What's New

Departments

Specials

Essay

Reportage

## 積極的なご参加を



同志社大学理工会 会長  
同志社校友会 理事

橋詰 源治

(1968年電気工学科卒 岩本ゼミ)

4月14日熊本県を襲った地震は、その後、大分県にまで及び九州全域に甚大な被害を与えており、一刻も早い終息を願うばかりです。

特に花岡山、ジェーンズ邸、徳富蘇峰記念館など、同志社ゆかりの熊本建造物にも大きな被害が報告されています。

被災地の復興には日時を要する事と思いますが、全同志社として協力しなければと存じますので、校友の皆様のご支援をお願い申し上げます。

さて、今年は夏のリオ オリンピック、パラリンピックの年であり、同志社出身の選手の活躍に大いに期待したところですが、運営も結果も大変素晴らしい大会であり、皆様も大いに感動された事と存じます。

私達の同窓会の運営も幹事会を通じて、徐々ではありますが、

## 理工会東京支部 支部長就任挨拶



同志社大学理工会 東京支部 支部長

奥出 聡

(1977年電子工学科卒 滝山ゼミ)

昭和52(1977)年 工学部電子工学科卒  
同年 (株)日立製作所入社  
平成27(2015)年 (株)テクノスジャパン入社

理工会、また東京支部の会員各位におかれましては、ますます清栄のこととお慶び申し上げます。

この度は、理工会東京支部の支部長を拝命する事になりました奥出でございます。どうぞ宜しく願い申し上げます。これまで東京支部発足に際し準備頂きました片桐陽様を始めとした皆様のご尽力に感謝申し上げます。微力ではございますが、心新たに理工会とともに東京支部の発展に邁進する覚悟でございますので、何卒宜しく願い申し上げます。

昔を振り返り、自己紹介させていただきますとゼミは超高周波の滝山教授の下、「タングステン-ニッケル点接触ダイオードの特性」と題した研究をしました。

クラブ活動はゴルフ同好会に所属し、関西連盟、全日本連盟の試合にも出場し、今もシングルをキープしております。日立製作所ではシステムエンジニアとして関西、全国、グローバルの市場も担当して参りました。

現在はテクノスジャパンで代表取締役会長として社業に励んでおります。

ERP (Enterprise Resource Planning) パッケージを適用した

一步一步前身しています。

特に、長年話題に上がっていました東京支部の運営が大きく前進し、10月1日(土)に松岡学長、林田理工学部長ご臨席のもと発足式を挙げる事となり、東京支部が動き出します。

関東地区の皆様には大変永い間ご不便をかけ申し訳ありません。今後は皆様の英知を集めて素晴らしい理工会として運営される事と期待いたします。

同窓会とオリンピックは参加することに意義があると存じます。競技に参加する選手、観客席で応援する人々、運営する方々等が力を合わせてこそ運営が続くものです。

東京と京都は離れていますが、気持ちに通じていれば、お隣同志と思います。

私も若い時、東京出張した時は東京の同窓生と話し合うのが楽しみで、特に新鮮なニュースや商品を紹介してもらい、いつも最終の新幹線で大阪へ帰宅したものです。

同窓会はそれぞれの年代により活用も違う様ですが、今出川、京田辺校地の思い出はそれぞれの同窓生の胸に刻まれています。

東京支部の益々の発展に期待し、今年11月5日(土)、京田辺での総会での再会を約しご挨拶いたします。

システム構築が中心の会社ですが、AI (Artificial Intelligence) IoT (Internet of Things)、ビッグデータ等の分析、解析を専門にする子会社も持っており、事業拡大しようと考えております。

1990年代の第一次AIブームの際には丁度日立で担当しており、実用化したAIアプリケーションシステムを米国の学会で発表致しました。現在とは技術レベルは違いますが、非常にアカデミックな経験をさせて頂いた記憶がございます。

今後、この技術は自動車の自動運転のみならず、機器/装置の故障診断、販売需要予測、ロボット等様々な分野装置の故障診断、販売需要予測、ロボット等様々な分野で適用拡大していきます。

この理工会を通して会員各位が様々な情報交換、情報の共有ができればと願っております。

そのためには支部の会員を増やし支部の活性化に努力して参ります。最後に会員の皆様のご活躍を祈念申し上げます。

### 理工会東京支部設立総会のご案内

日時：2016年10月1日(土) 18時～21時

場所：同志社東京サテライト・キャンパス

会費：6,000円(懇親会費用として)

設立総会次第

- 開会挨拶 発起人代表 片桐 陽
- ご来賓挨拶 同志社大学 学長 松岡 敬
- ご来賓挨拶 理工学部長・理工学会会長 林田 明
- 挨拶 理工会会長 橋詰 源治
- 支部長挨拶 奥出 聡 (株)テクノスジャパン会長

お問い合わせ先：東京校友会内 TEL：03-5579-9728

Mail：dkkt@doshisha-tokyo-alumni.jp



## 理工会今年度の 取り組み

「理工会」は、卒業生の親睦をキーワードに、総会・講演会開催、名簿管理ならびに会報発行等を行うと同時に、新たな「仕掛け」を思料致しておりますが、その一環として、今年度は「東京支部発足」「親睦ゴルフ開催」「女子会の充実」「ゼミ同窓会活動の充実」を行ってまいりましたのでご紹介させていただきます。

## 東京支部発足の経緯

兼ねてより東京支部発足の準備を進めて来ましたが、やっと設立総会を10月1日（土）18:00から同志社大学東京キャンパスのセミナールームで開催することになりました。

前号と一部重複しますが、私の経歴を少しお話しさせていただきます。私は、同志社中学、高校と進み大学は車が好きな事もあり、機械工学に進もうと思っていました。ただ、趣味と仕事は別の方が良いと思い、電気工学に進んだ訳です。音楽は大好きでしたから、オーディオ機器を自作したいなと思ってもあったのです。ところがいざ授業が始まってみると、忽ち困ったのが数学で、こんなにもあるのかという程数学ばかり、お陰で多くの単位を二年掛けて取るというような学生でした。沢山単位を残したまま4年になり、電磁気学の岩本国三教授の単位は落とす訳にいかず、これは教授の元に飛び込むしかない見え透いた動機で岩本ゼミに入りました。教授には大変厳しく教育されましたが、今となっては良い思い出ばかりで、教授には感謝しています。

さて就職は、DXアンテナの技術者として採用されましたが一年で退社し、パイオニアの技術者募集を知り受験、中途採用になりました。性格テストで「君は営業向きだよね！」と言われセールスエンジニアとして京都営業所で電気店街の寺町や電話工事屋などを担当しましたが、この5年の経験がその後の生き方の基本となりました。

本社の製品企画部に転勤になり、その後は広報部の数年以外殆ど企画や事業部長などを担当し、無事に定年迄勤め上げました。定年後電子部品会社に4年勤めましたが、退社後時間的な余裕もできた事もあり、母校の同志社大学東京校友会の活動に参画し、数年前から常任幹事を仰せつかっています。

その頃から京都のホームカミングデーに行く度に理工学部の集まりに呼ばれて、東京支部の立ち上げに協力して欲しいと言われ続けていました。ただ東京校友会では機関誌「東京ジャーナル」の編集長も担当しており、なかなか時間的な余裕が取れず、毎年のホームカミングデーの度に会長はじめ皆

## ようやく叶った東京支部発足

私は、昭和46年に工学部化学工学科原研究室（単位反応研究室）を卒業しました。あっという間の45年でした。横浜に特許事務所を開いてからも30年近く経ちました。

同窓会といえば、東京には同志社東京校友会があり、年に一度の「春の集い」に参加することで、同志社の雰囲気を感じることが出来ます。

「春の集い」とは別に、同志社東京校友会から派生した昭和46年卒の同期会（同志社46会）があります。同期会は年に3～4回開催され、同期会ならではの親睦会になっています。この同期会には工学部出身者も多くいます。

理工会東京支部発起人代表 片桐 陽  
1967年 電気工学科卒 岩本ゼミ



様に今年はどうですか、と催促ばかりされていた状況でした。

同志社東京校友会の常任幹事には67年卒の私を含め工学部出身者が5名在籍しており、メンバーには支部立ち上げの話はしていましたが、ただそれぞれ忙しい事もあり、私がやりましょうという者も現れず、そのままになっていました。そんな中、今年のホームカミングデーで理工会の方々にお会いした折、もうこれ以上待って下さいとは言えないなと思ひ、全くアイデアもなまま来年発足しようかと約束してしまったのです。

年が明け、春迄には何とかと思ひながら東京校友会の最大行事の「春の集い」が終わる迄はそれどころでは無く、全く進展しないまま時が過ぎて行きました。

そうこうする内、理工学部の松岡敬教授が4月に学長に就任され、支部発足の大きなきっかけを得ることが出来ました。春の集いに出席頂いた松岡学長に理工会の東京支部を発足しますので、ぜひ出掛けて来て下さいと話し、快諾を得たことが大きな後押しとなったのです。

校友会の群馬県中山支部長、茨城県渡邊支部長、山梨県櫻井支部長も全員65年卒の工学部出身者で応援して頂いていますし、後は支部長を何方にお願いするかということだけが大きな課題でした。私は元々発起人代表をする積りでしたが、支部長には現役で仕事をされておられる方、また業界に顔の広い方だと思っていました。そんな折り、「東京ジャーナル」の取材でお伺いした株式会社テクノスジャパンのグループCEO城谷直彦氏（76年経済）から同社会長の奥出聡氏（77年電子）を紹介され、理工会の支部長を引き受けて欲しいとお願いしたところ快諾を得ることが出来ました。

今後やらねばならないことは多々ありますが、設立総会にはセミナールームが一杯になるよう理工会の皆様が集まって頂きたいと思っています。

小原特許事務所長 弁理士 小原 肇  
1973年 工業化学科修士修了 原ゼミ



そんな中、理工学部同窓会（理工会）東京支部が設立されることを伺い、大いに楽しみにしております。校友会、同期会とは異なる新しい切り口の親睦会になることでしょう。況してや、理工学部は工学部と比較して学問領域が飛躍的に拡がり、多種多様な人材の集まる東京支部の設立が待たれます。

最後に、東京支部の設立にご尽力頂いている皆様方に御礼を申し上げます。

## 「DoKo ネット」にみる 理工学部同窓会の東京支部設立への思い

理工会幹事 森本 護  
1965年 電気工学科卒 元木ゼミ



古い話で申し訳ありませんが、わたしは20年ばかり前、技術屋を卒業して東京に転勤になりました。千葉県人になり松戸から都心まで3年間電車通勤した経験があります。

聞いてはいましたが、夜11時を過ぎても一杯飲み終えたサラリーマンで、毎日がそれぞれ週末のように満員でした。東京はやはり日本の経済の中心、歩けば歩くほど多くの情報が得られるし、新しい出会いがありました。そのときある先輩から、東京は一に人脈、二に人脈、三に情報だと教えられました。

何とか人脈を広げたいと思い、大学・高校名を冠に3つの集まりを作りましたが、いずれも離任後は自然消滅しました。しかし立ち上げに参画し活動した校友会千葉支部（平成10年10月設立、初代会長は吉見守翁氏）は、現在も続けられている「千葉再発見の旅」（私が提案名付け親）など熱心に活動されています。その時に思ったことは、中心になって活動していただける方々としてしっかりした組織を作らないと継続しないということを痛感しました。

同窓会の活動のお手伝いをするようになった2010年から今日まで、私の同窓会東京支部設立への思いと同じように、過去のDoKoネット会報などに思いを告げられた方々がおられました。

2006年第8号で校友会東京支部の常任幹事をされていた野崎哲郎氏（昭和37年電気学科卒）が「工学部出身の卒業生に東京支部に入会下さい」との呼びかけに応じて、2008年第10号には「工学部同窓会東京支部設立準備報告」に野崎哲郎氏を含めて小原肇氏（昭和46年化学工学科卒）を中心に工学部同窓会東京支部設立の準備が進められており、2007年8月東京にて準備会をもちましたと報告されていました。また、2009年第12号のアンケート調査では「各地方支部の開設を」が希望の上位を占め、みなさんの希望が高いことがわかりました。さらに2014年2月、池田健司氏（平成元年電子工学科卒）から事務局宛に、

「東京方面における理工学部だけの同窓会組織を新しく立ち上げて、理工学部卒業の方々の情報交換と研磨のために活動を

行っていきたいと考えています」とメールで連絡がありました。

このように、東京で活躍されている世代を超えた方々から支部を設立したいという声が挙がり自発的に取り組まれましたが、なかなか思うように発起人が集まらず立ち上げられなかったのが実情のようです。

このことを受けて、会報第22号（2015年10月）で東城副会長が巻頭言で語られた「魅力ある同窓会をつくるための活動の第一に東京支部設立準備」を受けて、幹事会で本格的に取り組んでまいりました。

会報第13号ひとことエッセー「同志社を卒業して40数年、そして今思うこと」に掲載された関東42会の岳温泉での助さん姿の写真的片桐陽氏を見て、この方ならと思い、かねてから支部設立の発起人代表をお願いしていました。それから2015年11月同志社大懇親会、交流会（京都国際会館、宝が池プリンスホテル）でお会いし、重ねてお願いしたところ、片桐氏から「わかりました、引き受けましょう」というお言葉をいただきました。片桐さんのこのお言葉から、やっと永年の思いが叶えられて、理工会東京支部が、この10月1日に発足する運びになりました。

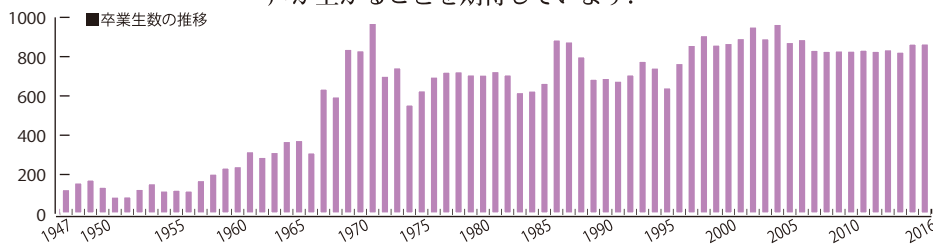
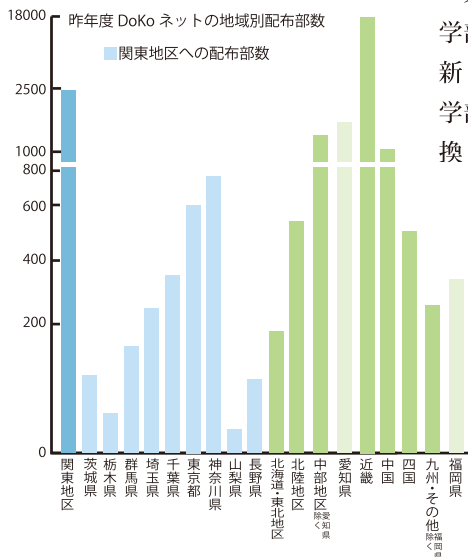
ここで、同志社、理工学部卒の同窓生の方々の意義のある大きな人のつながりの輪ができ、本部（京都）とはひと味違った東京発の情報発信をしていただき、全国各地で活躍される同窓生にも役に立てる組織になってほしいと願っています。

関東地区のみなさん、理工学部卒業生の方々は卒業時から全員が同窓会の会員です。このことを忘れないで、どうぞ東京支部の集まりにご参加下さい。

工学部の同窓会は、1950年（昭和25年）「紫工会」に始まり、1994年には、工学会から分離して「工学部同窓会」が発足し、初代同窓会長に戸高敏之工学部長が就任されました。卒業生数は全国に4万人超おられます。

今では、毎年理工学部を800人強卒業され、そのうち約48%が関東地区に本社のある企業に就職されています。理工学部同窓会では、全国に散らばる卒業生のうち関東地区に在住される方、約2400人に会報DoKoネットをお送りしています。会報が届いていない方をご存じでしたら、是非事務局までご連絡下さい。

最後に、東京支部に次いで、愛知・福岡でも、支部設立の声が上がること期待しています。





## 第一回会長杯争奪ゴルフ大会 開催される

ゴルフ大会事務局 大枝 正人  
 <1977年 機械工学第二学科卒 新井ゼミ>

今年の幹事会では、多くの会員に参加の機会をご提供し、会の活性化につながるための仕掛けをしていますが、その一環として、ゴルフを通じて世代間交流を図る目的で、会長杯争奪ゴルフ大会を6月5日（日）日清都カントリークラブにおいて開催しました。

当日スタート前は、小雨気味でしたが、プレー開始頃からほぼ雨は上がり、快適なコンディションでプレーすることができました。参加者は、普段の技術を遺憾なく発揮し、それぞれ満足のいくスコアでホールアウトしました。プレー後の表彰式では、初対面同志の名刺交換から始まり、ゴルフ談義、大学時代のお話、お仕事のお話などに花が咲き、和やかな懇談となりました。

理工会会員におかれましては、次回開催の折には、本誌や同志社タイムスを始め各種の広報手段でご案内しますので、多数のご参加をお待ちしております。

なお、当日の成績は以下の通りです。

- 優勝：川瀬輝久（1969年電気工学科卒）岡田 篤ゼミ  
 準優勝：笹木史雄（1977年機械工学第二学科卒）新井ゼミ  
 3位：新庄康裕（1967年電気工学科卒）岡田 篤ゼミ



## 理工会「女子会」

理工会幹事 松村 恵理子

<1997年 機械工学科卒 藤本・千田ゼミ>

「リケジョ」が注目を浴びる昨今、理工会としてもOGネットワークの基盤構築とOG交流の活性化の必要性を感じ、昨年度、初の試みとして理工会「女子会」を大学のホームカミングデーおよび理工会の総会・リユニオンに合わせ、今出川キャンパスの良心館にて開催いたしました。

準備期間が短く、会の開催の周知が遅れたこともあり、本格的な「女子会」立ち上げのための準備的な会合として開催した「女子会」ですがOG・現役学生・教員合わせ15名の方々にご参加いただき、様々な年代・学科・立場を超えて交流することができました。

教員からは昔と今のキャンパスや学生の変遷を写真やデータを用いて解説させていただき、OG、現役学生それぞれが環

境の違いに驚きつつも、OGの皆様にとっては、新しい良心館への驚きと昔懐かしい今出川キャンパスに思いを馳せながら、交流を深められておられました。

第2回目となる本年度は大学のクローバー祭および理工会の総会・リユニオンに合わせ、京田辺キャンパスにて11月5日（土）に開催いたします。

昔懐かしい先生方も参加されますので、ぜひとも奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

詳細につきましては、10月頃ご案内させていただきます。



## 博士情報交換会

理工会副会長 東城 哲朗

理工会幹事(活性化担当) 北岸 宏亮

<1983年 工業化学専攻大学院後期課程修了 山下・田坂ゼミ> <2006年 工業化学専攻大学院後期課程修了 加納・小寺ゼミ>

理工会活性化事業の新しい試みとして、11月5日（土）のクローバー祭に行われる理工会総会・リユニオンの懇親会場に各界で活躍中の「博士のOB,OG」をお招きし、現役学生、特に「現役博士課程学生」と和やかな雰囲気でお話し、博士OB,OGの採用事情や就業後の活動の様子など、【生】の情報を伝える【場】を設定することになりました。

これが同志社大学で研鑽を深め、各界で活躍されている方々と、将来の活躍が多いに期待される学生の方々の縦横コンタクトを深めてゆく有意義な機会になる事を期待致します。

理工会会員および現役学生の皆様で本件に興味を持たれる方もふるって御参加戴ければ幸いです。

## ゼミ同窓会活動

理工会幹事(活性化担当) 赤尾 尚志

<1976年 電気工学科卒 岩本ゼミ>



私は、同志社大学理工会で同窓会の活性化担当幹事をしています。

去る5月21日（土）、理工会とゼミ同窓会委員との懇親会が開催されました。橋詰会長以下理工会役員19名とゼミ同窓会委員13名が京田辺校地成心館201会議室に集い、正午より昼食をはさんでの意見交換を行いました。理工会役員・ゼミ同窓会委員ともに積極的に意見を出し合い、最後にゼミ同窓会委員の各担当を決めて、本会は13時半に終了いたしました。

今回で2回目の開催となるゼミ同窓会委員懇親会ですが、

理工会とゼミ同窓会委員との交流を図ることを目的として昨年に初めて開催されました。

理工会と致しましては、ゼミ同窓会委員の方に以下の2点をお願いしたいと考えております。1つ目は、研究室と理工会のパイプ役・総会等への参加など、現在の理工会活動のサポートをして頂きたい。2つ目は、将来同窓会の役員となり、同窓会の運営に積極的に担って頂きたい。これらをゼミ同窓会委員に伝えるとともに、ゼミ同窓会委員からの意見・要望を理工会に取り入れる為、今後も懇親会の開催を継続させていきたいと考えております。

- |           |                      |
|-----------|----------------------|
| ゼミ同窓会委員代表 | 堀内保大 (M2), 飯田啓太 (M1) |
| 活性化委員     | 木村峻一 (M1)            |
| 理工会報担当    | 菅原義人 (M2)            |
| 女子会担当     | 田中亜弥 (M2)            |

# 高機能微粒子研究センター

同志社大学研究開発推進機構では、同志社大学の特色を活かした先端的、学際的研究拠点を形成し、統括的に研究活動を支援していますが、その組織の中には多数の研究センターがあります。今回はそのひとつ「高機能微粒子研究センター」をご紹介します。



センター長  
**白川 善幸**  
(化学システム創成工学科 教授)

はじめに当センターの設置経緯について簡単に述べる。京都は古くから清水焼や装飾用の貴金属粉など伝統的に微粒子産業が活発な地域である。現在もセラミクスや半導体の分野で京都に拠点を置く世界企業が数多くあり、昔も今も微粒子産業の中心は京都にある。また、粉体工学会、日本粉体工業技術協会、粉体粉末冶金協会などの事務局本部が京都にあり、京都は微粒子工学の中心地に

もなっている。本学における微粒子研究は、工学部ができてまもなく粉体系の研究室が設立され、これまで同志社大学から粉体工学会会長を2名輩出している。したがって、歴史的にも現在の環境においても同志社大学は粉体領域の知的集積において高いポテンシャルを有していると考えられる。

同志社における微粒子研究について、ここ数年を振り返ると、平成16年にJSTの地域COEに申請し採択され、京都を主とした関西地区において同志社大学を中心とした産官学連携が行われ、新しい産業の創出について取り組んだ。続いて文部科学省の「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択され、前事業の地域COEの成果とそこから出た課題を基に新しいシーズ開拓のための科学と工学の融合について研究が進められた。ここで培われた新しいプロセス設計の概念を応用展開するために、2014年度に高機能微粒子研究センターが設置されることとなった。

当センターが取り組む課題の一つは、環境と人体に優しい微粒子材料ならびに微粒子からなるデバイス製造におけるプロセス技術の開発である。材料の高機能化・新機能付加のためにナノ粒子を利用する技術は、医薬品、化粧品、電子材料などの多分野で進展し、その成果は身近な商品にまで及びはじめている。しかし近年ナノ粒子を用いた製造において、ナノリスクの問題が取り上げられ、アメリカ政府による規制や日本の厚生労働省の通達が出るなど、今後規制が強まり、日本が先進するナノ材

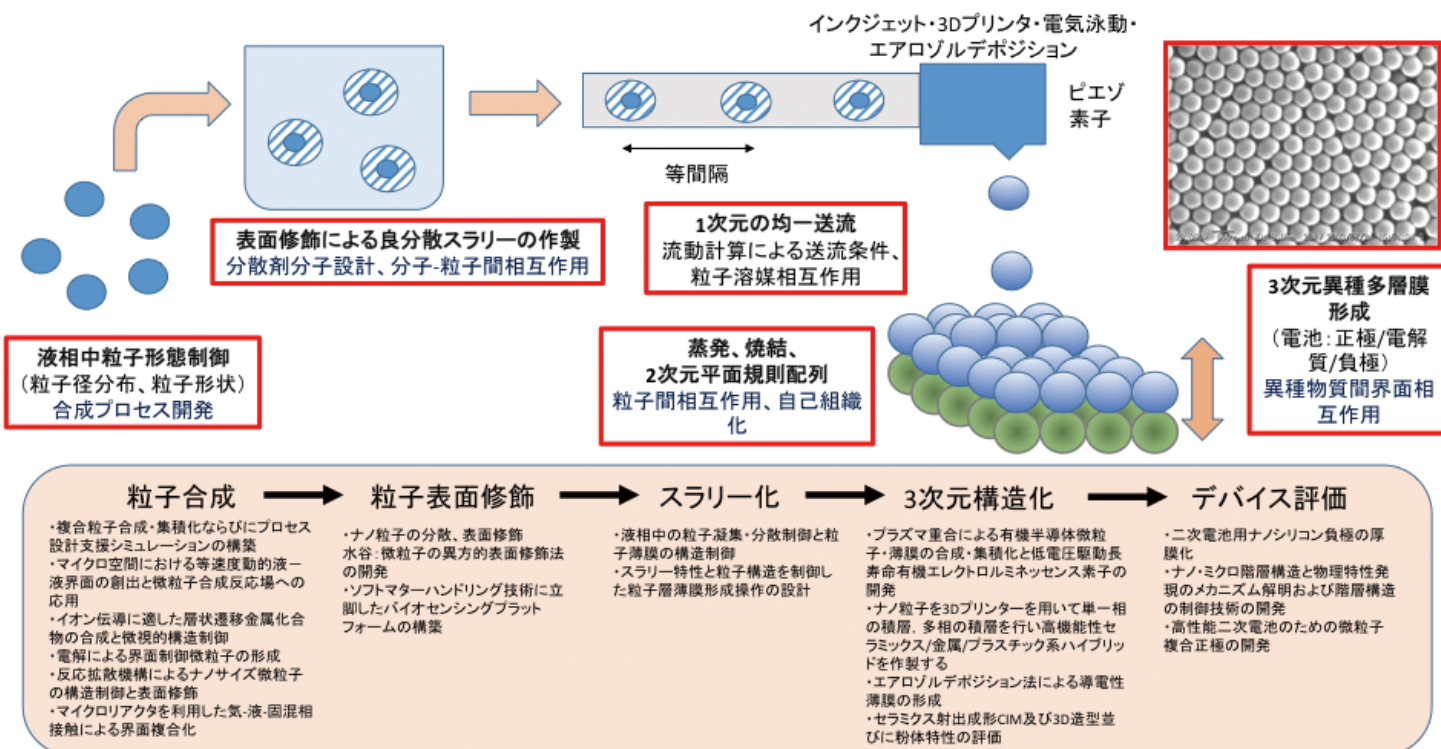


図1 ナノリスク回避プロセスの開発



料開発を推進し辛くなっている。この問題を解決する1つの方法として、製造プロセス全体を液相中で行う方法が有効である。この実現のためには、造粒から材料構造化まで一貫してナノ粒子を暴露することなくその挙動を完全にコントロールできる技術を開発しなければならない。そこで当センターは、液相中で造粒と粒子を組み立て正確に3次元構造化する操作を高度化し、ナノリスク回避のためのプロセス技術の開発を課題として掲げ、研究を行っている。またナノ技術のハブとなる研究拠点を形成し、液相ナノ技術を有する研究者・技術者の育成を目指している。具体的な研究計画として、次世代電池の開発、低電圧駆動ELやバイオセンサーをナノ粒子から作りあげて高機能化しようという試みが行われている。特に粒子の大きさが変わると、粒子を支配する力が変わる。つまり粒子サイズを小さくすると重力支配より粒子間相互作用の方が強くなる。したがって、ハンドリング方法を大幅に変える必要が出てくる。そこで形態制御されたナノ粒子、複合微粒子のハンドリング技術を開発し、3つの応用について展開することで実用化に向けた研究を進める計画になっている(図1, 2および3)。

さらに今年度から当センターの研究としてスタートさせて新たな展開として、海洋からの塩微粒子生成と陸地への移動モデルの構築について推進する予定である。海洋からもたらされる塩の微結晶は、エアロゾルとなって気象に大きな影響を及ぼす。さらに、建物、架橋等に対して腐食の大きな原因となるため、塩の飛散は安全にかかわる重要な課題になっている。しかしこの現象は、塩害のみならず、塩類が陸地に運ばれることによるミネラルの輸送でもあり、農作物に塩益ももたらすこともある。このような海洋からの塩が及ぼす影響については古くから知られており、多くの研究がなされているが、大規模であること、また地域や季節の問題などを含み、かなり複雑な事象が絡むため、完全に解明されているとはいえない。そこで、実験ならびにシミュレーションを用いて、気象条件と塩微粒子の生成メカニズム(図4, 5)と粒子径分布の関係ならびに建物に付着する粒子の付着力とその経時変化および腐食の進行などについて研究を行う。本テーマは、学内外でグループを形成し新しいアプローチで海洋からの塩移動について体系的な検討を行う。

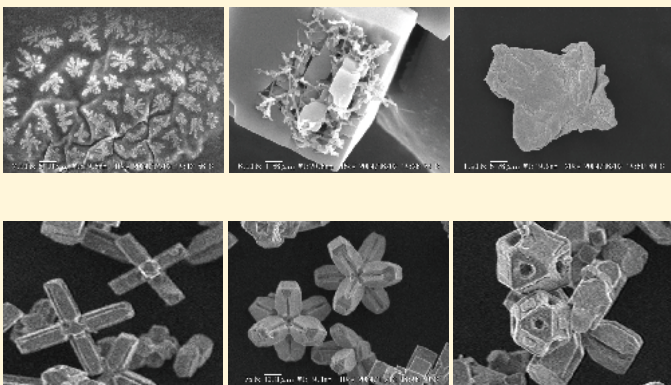


図2 析出環境によって変化するNaCl粒子形状



図4 模擬海水面における液滴形成実験

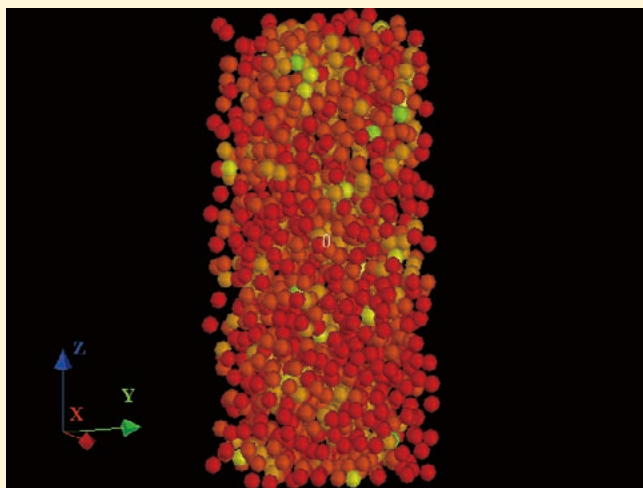


図3 有機溶媒中に分散した微粒子のせん断応力下におけるシミュレーション

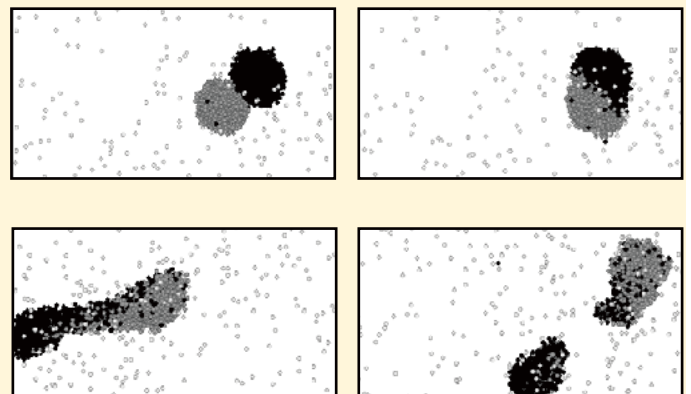


図5 コンピューターシミュレーションによるナノ液滴の衝突挙動

キーワード:情報システム,知的処理,人間中心設計,進化適応型自動車運転システム

## インテリジェント情報工学科 情報システムデザイン学科



本年度は、インテリジェント情報工学科に 73 名、情報システムデザイン学科に 91 名の新生が入学し、情報工学専攻前期課程に 73 名、後期課程に 5 名の進学者を迎えました。

就職に関しては、経団連の倫理憲章が混迷して採用選考の活動時期が 8 月から 6 月へ繰り上がっており、就職を希望する学生の就職活動には少なからず混乱もありますが、情報技術分野の広がりによる就職先の多様化から、情報系関連企業はもとより幅広い分野の職業に就くと存じます。

研究については、情報システムデザイン学科の佐藤健哉教授がセンター長を務めるモビリティ研究センターが文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「進化適応型自動車運転支援システムードライバ・イン・ザ・ループ」採択から 3 年目を迎え、さらに活発な活動を行っています。

最近の学協会での受賞は以下の通りです（尚、学年は発表時のものです）。  
教務主任 大久保 雅史

発表題目：SPEAKER ADAPTIVE TRAINING FOR DEEP NEURAL NETWORKS EMBEDDING LINEAR TRANSFORMATION NETWORKS  
受賞名：IEEE 関西支部 学生研究奨励賞  
受賞者：落合翼（博士後期課程 情報工学専攻 2 年、日本学術振興会特別研究員）

発表題目：混同色線理論に基づく白色光による色覚バリアフリーの検討  
受賞名：第 47 回日本色彩学会発表奨励賞  
受賞者：後河内鉄（博士前期課程 情報工学専攻 1 年）

発表題目：協調型自動運転のための LDM グローバルコンセプト実証実験  
受賞名：ITS シンポジウムベストポスター賞  
受賞者：佐藤 健哉（教授）

発表題目：指動作認識を利用したスマートグラス上のユーザインタフェース操作  
受賞名：情報処理学会 DICOMO 優秀プレゼンテーション賞  
受賞者：森田 健太郎（博士前期課程 情報工学専攻 1 年）

発表題目：OpenFlow を用いた TCP トラフィック動的経路分散ネットワークの提案  
受賞名：情報処理学会 DICOMO ヤングリサーチャー賞  
受賞者：吉村 悠（博士前期課程 情報工学専攻 1 年）

発表題目：パケット認証を用いた DoS 攻撃に起因するトラフィック問題の回避手法の提案  
受賞名：情報処理学会 FIT 奨励賞  
受賞者：今野 裕太（情報システムデザイン学科 4 年）

発表題目：赤外線を利用したトラッキングによる指動作認識システム  
受賞名：情報処理学会 FIT 奨励賞  
受賞者：森田 健太郎（情報システムデザイン学科 4 年）

発表題目：車両周辺環境とドライバー特性を考慮した自動車運転モデルの検討  
受賞名：情報処理学会全国大会学生奨励賞  
受賞者：楠瀬 通（博士前期課程 情報工学専攻 2 年）

発表題目：車々間通信パケット多重化による効率的ジオキャスト配信手法  
受賞名：自動車技術会大学院研究奨励賞  
受賞者：多田 正範（博士前期課程 情報工学専攻 2 年）

キーワード:インフラストラクチャ,パワーエレクトロニクス,光・電子回路システム,情報通信

## 電気工学科 電子工学科



今春から電気工学科・電子工学科の一般入試における理科の受験科目が、物理と化学で選択できるようになりました。物理と同じように化学の素養が重要な研究分野が増えてきており、これらの分野でも活躍できる幅広い工学的センスを持つ多様な学生の入学が期待されます。理科選択制を導入した本年度は、電気工学科に 96 名、電子工学科に 99 名の新生を迎えました。スムーズな高大接続の観点から、電気系学科の特色ある科目として 1 年生春学期に設置している「ゼミ演習」では、10 名程度の少人数クラス構成で行う講義や見学などを通じて、学生が目標を持ち自立した学修方法を身につけられるよう、毎年方法を工夫しながら実施しています。

大学院理工学研究科電気電子工学専攻の博士前期課程には、84 名の進学者を迎え入れました。電気系卒業・修了生にいただいた寄付金などを基金として、国内外の学術講演会などへの渡航費補助などを行っています。これにより、大学院生の国際会議での研究発表や筆頭著者論文の国内外の一流雑誌へ掲載



される件数が増加してきています。また、留学生も増え、国際性豊かな教育研究環境が形成されつつあります。

就職に関しては、700 社を超える企業からの求人があり、複数名を採用される企業も多くあります。電気・電子工学を学んだ学生への社会からの期待は大きく、電機業界はもとより運輸や通信、建築など幅広い分野へ就職しています。

専任教員は現在 22 名で、電気電子工学の基幹分野をカバーする 11 の研究室があり、各研究室 2 名の教員が担当しています。佐藤祐喜 准教授が 2016 年 4 月より 1 年間の予定でドイツのユーリッヒ研究センター、ピーターグリュンベルグ研究所へ在外研究に出られています。また、小山大介 准教授が平成 28 年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞を受賞されました。今後も高い教育・研究の質を保ち、社会の発展に貢献できる人材を輩出し続けられるように、電気系教員一同で努力を続けて参りたいと思っています。今後とも変わらぬご支援をお願い致します。  
教務主任 井上 馨



キーワード:材料,金属,構造,加工,熱流体,動力,設計,振動・制御,生産システム・メカトロニクス

## 機械システム工学科 エネルギー機械工学科



本年度の入学生は、機械システム工学科117名、エネルギー機械工学科76名でした。また、91名が大学院博士課程前期（修士）に入学し、現在2年生と合わせて合計191名が在籍しています。博士課程後期にも19名が在籍しています。留学生の数も着実に増加しています。学部1年生として入学する従来の留学生に加えて、グローバル30の採択に伴い開設された、英語のみで学位が取得できる国際科学技術コースには、アメリカ、インドネシア、フィリピン、インド、ベトナム、ネパール、ナイジェリアなど多様な国からの留学生が多数、在籍しています。ナイジェリアからの留学生は「アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ」、いわゆるABEイニシアティブの研修生であり、今年の10月からこのプロジェクトによりさらにセネガルから1名来日する予定です。

一方、日本人学生については、ヨーロッパの大学と締結している卒業と同時に二つの学位が取得できるダブルディグリープログラムの協定に基づいて、今年は機械系学科から、フ



ランスの名門校であるエコール・セントラル・リールおよびエコール・セントラル・ナントに計3名を3年間派遣する予定です。また、ドイツのカルスルーエ工科大学にも1名が1年間留学する予定です。このように機械系学科も国際化が着実に進んでおります。

就職活動については採用活動の解禁が昨年度の8月から6月に早まり、関係者の間では混乱が見られましたが、企業からの学生求人の状況は230名の修了および卒業見込み者数に対して、機械系だけで約800件以上の求人がありました。また、卒業生を中心に機械系就職委員に面談いただいた企業は154社になります（5月末まで）。

一般企業への就職を希望する学生の就職率は、例年通り実質100%を維持しており、これも卒業生OBのご活躍のお陰であります。あと、皆様もご存知のように今年度から本学学長に機械系から松岡敬教授が選出されました。

同窓会の皆様からは今後とも、ご支援のほどをよろしくお願ひ致します。  
教務主任 宮本 博之

キーワード:機能性物質,バイオテクノロジー,マテリアル・プロセスデザイン,化学システム

## 機能分子・生命化学科 化学システム創成工学科



化学系2学科（機能分子・生命化学科、化学システム創成工学科）は、本年度185名の新入生を迎え入れました。2008年度の改編から9年目を迎え、それぞれ「分子の性質を活用して先端領域を開く 一次世代を担う化学のスペシャリストへ」と「化学と化学工学を使いこなして、人と環境にやさしい化学システムの創成を目指す」をモットーに、教育・研究を行っております。また両学科にまたがって構成される大学院応用化学専攻博士前期課程に57名、後期課程に4名の入学者を迎えることとなりました。教員の動きに関しては、2016年度より新たに化学システム創成工学科に竹中壮教授（材料システム研究室）、吉田幹生准教授（粉体工学研究室）をお迎えすることができました。

昨年度は就職協定の変更に伴い学生の就職活動が多少混乱したものの、就職率も学部卒、大学院修了生ともに100%を達成することができております。回復基調にある景気動向から、今年度も売り手市場とは言われているものの、度重なる



就職協定の変更により、学生側・企業側ともどもとまどいも多いように思われます。

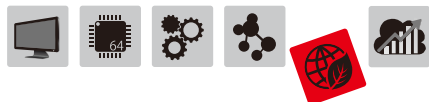
学科としての広報活動の一環である、オープンキャンパスにおける独自イベントの「夢化学」は今年で21年目を迎えることとなりました。両学科の教員が高校生向けの実験実習をおこなうこのイベントは、参加する高校生にも好評で、今年は200名以上の希望申し込みがあり、残念ながらすべての生徒さんには体験していただくことができませんでした。今年は日経新聞からの取材もあり、8月の夕刊記事として掲載されました。

今後も、充実した高いレベルでの教育・研究環境を学生に提供できるよう化学系教員一同努力していきたいと考えております。変わらぬご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

教務主任 木村 佳文

キーワード:地球環境, 生命環境, 資源・エネルギー, 社会システム

## 環境システム学科



環境システム学科では、2016年3月に55名の学生が理学士または工学士として卒業しました。そのうちの半数の学生が大学院に進学し、17名が本学大学院数理環境科学専攻へ進学しました。本学科を卒業した学生の就職率は、昨年度と同じく100%でした。就職先は、製造、環境関連企業の他、金融機関、製薬会社、IT企業、自治体や教育職などであり、様々な分野での今後の活躍が期待されます。

教員の移動につきましては、今年3月に、光田重幸准教授が退職されました。光田先生には、長きにわたり本学の教育研究活動の発展に多大なご尽力を賜りました。4月より新たに大園享司教授をお迎えしました。大園先生は生命環境保全分野を担当し、森林生態系、生物多様性およびメタゲノミクスに関する研究、特に有機物の分解プロセスと菌類や菌類多様性、土壌分解系の環境傾度にもなる変化と広域比較と分子生物学的手法を用いた網羅的解析などに取り組まれています。

本学科は、自然科学諸分野の横断的な知識をもとに、地球と生命の理解、自然環境の保全、循環型資源・エネルギーシステ

照井信太郎君  
第17回関西表面  
技術協フォーラム  
にて「優秀ポ  
スター発表賞」  
受賞



森下友樹君  
2015年度第3回  
関西電気化学会  
研究会にて「関  
西電気化学奨励  
賞」受賞



ムの構築などに貢献できる人材の育成を目指しており、初年次に理工学の基礎科目、2～3年次に環境科学と環境工学の専門科目、科学技術論や環境経済学などを学んだ後、卒業研究へと進むカリキュラムを編成しています。

2015年度の研究成果として、田伏章浩君(M2)が6th International Symposium on Physics in Spaceにて「Mohri Poster session Brilliant Poster Award」(2015年9月)を、照井信太郎君(M2)が第17回関西表面技術協フォーラムにて「優秀ポスター発表賞」(2015年11月)を、森下友樹君(M2)が2015年度第3回関西電気化学会研究会にて「関西電気化学奨励賞」(2015年12月)を、山本大貴君(M2)が日本堆積学会2016年大会にて「最優秀ポスター賞」(2016年3月)を受賞するなど2015年度も大いに活躍しております。

教員一同、教育・研究の質を落とさぬようたゆまぬ努力を続けていく所存でございますので、今後とも同窓会会員の皆様のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

教務主任 後藤 琢也

キーワード:世の中に貢献する数理科学, 統計科学, データサイエンス

## 数理システム学科



数理システム学科は、2016年4月に開設より9年目になり、49名の新入生を迎えました。数理システム学科の在学生の人数は、2015年の春学期時点で198名、その内訳として1年次49名、2年次54名、3年次35名、4年次51名となっています。

来年の4月に、数理システム学科の第6期の卒業生を送り出します。今年は、昨年までと異なり企業の内定時期が6月以降に変更された影響もあり、就職活動の期間が2ヶ月ほど短くなりました。進路希望としては、銀行をはじめとした金融機関やIT企業への就職希望、そして中学校・高等学校の教員の教職希望が中心となっております。今年度も昨年度に引き続き就職状況は好調で、多種多様な企業の内定を頂いております。また、来年度に本学の数理環境科学専攻の大学院前期課程へ進学するために大学院入学試験を受験し、合格した数理システム学科の学生数は、6名となっています。

数理システム学科の学生が、本学の数理環境科学専攻へ進学し始めて、5年目になりますが、より高度な専門知識の習得と問題解決能力を鍛えるために、日々、勉学、研究に切磋琢磨しています。学生の就職先や進路先の詳細は学科



HP : <http://mathsci.doshisha.ac.jp/>で年度ごとに公開しています。

本学科では、学科のOB-OGがまだ少ないため世の中の情報が余り入って来ないせいか、就職に対する在学生の関心が低く、就職説明会、個別就職面談に加えて、これまで卒業したOB-OGに就職後の経験を大学で講演していただくなどして、在学生の世の中に対する視野を広げるとともに、将来の進路に対する問題意識の喚起を図っています。加えて、将来、専門職、研究職に就きたい学生には、大学院への進学が将来の就職活動において企業に採用される上で重要であることをアドバイスしています。学生が卒業後、数理システム学科において育んだ数学力を活かして世の中で活躍できる人材となることを祈念して、日々当学科教員一同努力しております。今後とも、理工学部の同窓会の皆様方のますますのご支援とご鞭撻を賜るようお願い申し上げます。

教務主任 溝畑 潔



# 西ネパールの未踏峰 Aichyn峰世界初登頂達成



初登頂の様子

2015年度、体育会山岳部は創部90周年の機会に、西ネパールの未踏峰Aichyn(アイチェン)峰(6,055m)への世界初登頂を達成いたしました。体育会山岳部としては5年ぶりの未踏峰制覇で、この機会に隊長として責任を果たすことができ成功できたことへの喜び、応援して頂いた皆様への感謝でいっぱいです。

私は理工学部環境システム学科3年次の2014年度に、この海外遠征計画を実行することを決意し、翌年2015年度を休学し、その夏に2か月間ネパール遠征へ行ってきました。海外遠征計画を決意してから実に1年後の登頂になりますが、様々なことを経験できた休学期間でした。

この海外遠征を振り返って、多くの人に支えられたこと、自分自身の探究心を持ち続けたことが結果に繋がったと思います。西ネパールに位置する、Aichyn峰は未踏峰である以前に情報が全くありませんでした。写真もなければ、正確な地図もないくらいです。その条件の下、海外の山を登ったことのない私たちが登頂成功するためにはどうしたら良いのか。この問いに対して約1年間向き合ってきました。これが登山の醍醐味だと思います。そして、今回の遠征では登山本来の醍醐味を最大限楽しむことが出来たと思います。

<11月5日(土)京田辺キャンパスにて行われる理工会講演会では、松岡学長の学長講演の後、特別講演として仙田隊長自らがAichyn峰に挑んだ感動の実話を語って頂く予定です。是非ともご参加ください。>



ベースキャンプにて記念撮影(前列左端が筆者)

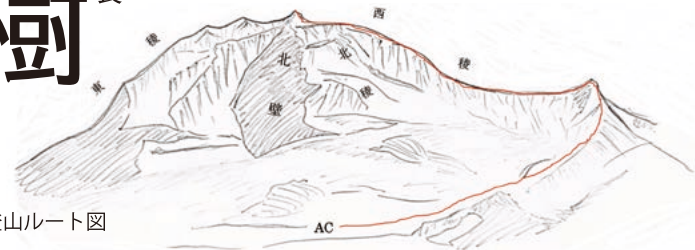


## 仙田裕樹

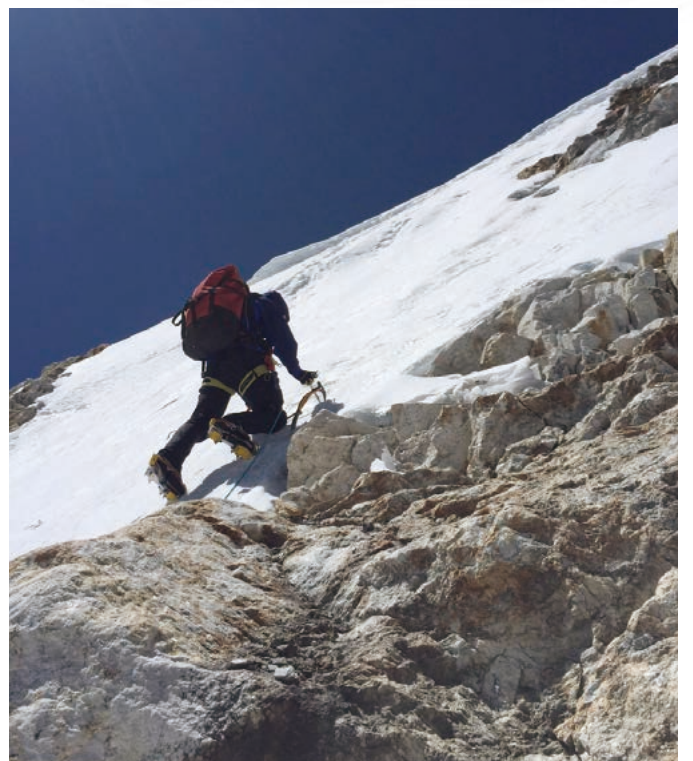
理工学部環境システム学科  
2012年度生  
同志社大学極西ネパール登山隊長



Aichyn峰をバックに記念撮影



登山ルート図



Aichyn峰の登攀の様子



## 常にポジティブに —法務省に転じて—

小宮山 秀史

1979年機械工学第二学科卒 三木ゼミ  
前法務省仙台法務局長  
東大阪公証役場 公証人

私が卒業した頃は、リーマンショックほどではなかったものの、就職難といわれていた時代でした。そんな中で、いったんは、機械メーカーで設計を担当する業務に就いたものの、紆余曲折の後、大阪法務局に採用され、法務行政に携わることとなりました。数年前の就職難時代に卒業され、就活に苦しまれた卒業生の皆さんや今の仕事に疑問を持たれている後輩の皆さんを含め、今後社会に船出される皆さんの参考になればと、私の法務行政での経験で感じたことをご紹介したいと思います。

全く畑違いの仕事に戸惑いは感じつつも、法務本省の登記制度を所掌する部署において、登記情報提供サービスの制度設計、平成16年に行われた不動産登記法の全面改正を担当するなどの貴重な経験を重ねることができました。この登記情報提供サービスは、インターネットで登記情報を取得することができるサービスで、現在は、年間1億件を超える情報提供をし、非常に多くの国民に利用していただいております。また、平成16年の不動産登記法の改正においては、登記の申請をオンラインで可能とするため、制度の根幹から全てを見直すもので、不動産登記法制定以来105年ぶりの全面改正となりました。そこで、できるだけ、多くの意見を取り入れることとし、制度研究段階から、これまでにない積極的できめ細かい情報の開示に努めました。また、100年間慣れ親しま

れてきた登記済証（いわゆる権利書）をなくすことになるなど大胆な制度改革を実施するものであり、感情的な反対意見が立ち上がりましたが、将来を見据えた新しい登記制度の体系を構築するため、粘り強く説明し、改正に至りました。

ところで、今回、皆さんにお話ししたいことは、これらの成果の内容ではありません。それは、法務局の幹部職員として新入職員と懇談した際に、ある職員から私が一番面白いと思った仕事は何だったかと問われたことがありました。そのとき、私は自分のこれまでの仕事を振り返り、最初に就職した民間の仕事を含め、どの仕事もどの職場も面白かったと気づいたことです。いずれの職場も、前向きに積極的に努力すればするほど、充実感、達成感が得られたと感じました。一番幸せだったのは、そういう自身の姿をはっきりと感じさせてくれる一点の曇りもない鏡のような職場で働くことができたことにあると思っています。そして、それは、自身が、与えられたそれぞれの業務に対して、また、働く職場に対して、真摯に取り組んだ結果が、そう感じさせているのだということとその職員に私自身の経験として話すことができたということです。

また、わずかな民間での経験も、その後の法務局での職務姿勢に多大な影響を与えたと思っております。常に国民目線を持ち続けることができ、また、改革・改善に常に積極的に取り組むことができたと考えております。そして、決して単なる楽観主義ではない、多くの経験と実績に裏打ちされたポジティブ思考が幾多の問題を解決する原動力になったと考えています。

現在は、公証人として公証事務に従事しておりますが、引き続き、公証役場の業務の改善に取り組んでまいります。



## 経験のありがたみ

田中 隆介

2006年エネルギー機械工学科卒 藤井・大窪ゼミ  
2008年大学院前期終了  
非破壊検査株式会社

私は小さいころから、ものづくりが好きだったので工作に関わる仕事に就きたいという漠然とした気持ちを持っており、進学についても、高校の担任教師からの薦めもあり、エネルギー機械工学科に入学しました。

当学科では、幅広い分野の教科を学ぶことができましたが、私は元来ものづくりが好きだったので、自然と材料関係に興味を持つようになり、構造工学研究室に入りました。余談ではありますが、恩師である当研究室の指導教官による授業に興味を惹かれたという理由もあります。

研究室では、修士前期課程修了まで3年間在籍し、その間に数々の経験をさせて頂きました。特に、他の研究機関と共に研究できたことは貴重な経験でした。就職した後に思い返しますと、もっと積極的に行事に向かい合っておればという

気持ちもあります。

学士・修士の研究テーマで「材料の健全性評価」に携わっていた事もあり、現在は社会基盤である発電所やプラントの健全性評価に関係する会社に就職しました。入社当時は研究開発部門への配属希望も考えておりましたが、現場での検査業務にも関わってみたいという気持ちもあり、入社から5年間は現場にて汗を流しました。実際の設備では、運転条件や材料の種類に応じて、様々な損傷が発生し、その原因究明などに関わられたことは貴重な経験でした。

現在は研究開発部門にあり、検査手法の開発に携わっておりますが、現場での経験は、研究開発を進める中でも重要なものとなっています。市場調査の中、頻繁に挙がる話題が「高経年化した設備」についてです。現在、社会基盤を支える種々の設備は建設より30年以上経過するものが大半を占め、今後はこれらの高経年化した設備に対する健全性評価の重要性は増すことが予想されております。

お客様の設備の健全性を評価する業務の重さを肌で感じる日々ですが、設備の安全が確認でき、お客様を安心させられる検査サービスの提供を心がけております。





## 感謝の言葉を力に変えて

西川 康博

2000年機械システム工学科卒 藤井・大窪ゼミ  
2005年機械工学専攻大学院後期課程修了 博士(工学)  
地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター  
多摩テクノプラザ 電子・機械グループ 主任研究員

私が勤めて8年目となる東京都立産業技術研究センターは、各都道府県に設けられている公的試験・研究機関の中でも最大規模の機関になります。センターの役割は、主に都内中小企業への技術支援を目的とした技術相談や評価・分析の受託試験、共同研究・開発など多岐にわたります。

同志社大学での9年間、私は機械工学、特に材料力学や構造工学を学び、藤井・大窪研究室では炭素繊維強化プラスチックの耐久性について研究を行いました。その後も4年間、各所属機関で強化プラスチックの研究を継続しました。これらの知識を活かし、入社以来、一貫して機械設計や構造解析、強度・耐久性評価に関わる業務を担当しています。また、現在の研究テーマも、スポーツ用義足の力学的特性評価など、炭素繊維強化プラスチックに関するものです。

これまでに技術支援を行ってきた製品は、傘などの日用品から医療機器、さらには宇宙機の部品と千差万別です。試作品が多く、図面や評価結果を見ながら助言や指導を行い、お客様と一緒により良い製品を作り上げていきます。最近では海外輸出支援にも力を入れており、各種規制や海外規格の情

報収集、分野横断の幅広い知識の習得が欠かせなくなっています。

この仕事に就いてから、コミュニケーションの重要性をますます感じています。いかに相手の考えを理解し、いかに自分の考えを理解してもらうか。業種も職種も様々異なるお客様が来所されるため、時には専門用語を一切用いないで説明するなど、各人に合わせて対応するように心がけています。そう言えば、研究室時代、研究内容をうまく説明できず、恩師の藤井透先生から『君の日本語はわからない』と一蹴されたことがありました。今となっては良い思い出（戒め？）ですが、

お客様に寄り添い、一緒になって問題解決に苦心した後、満面の笑みとともに掛けていただく『本当に助かった』、『次回も頼むよ』といった感謝の言葉は格別です。これらからも、この感謝の言葉を力に変えて仕事に取り組んでいきたいと思えます。



## “私の中の同志社”

中村 一郎

1981年工業化学科卒 山下(通)・田坂ゼミ  
森田化学工業株式会社  
取締役 営業本部長

高校を卒業し、一浪して同志社大学に入学したのは1976年でした。当初、工学部に入学し勉学に打ち込むはずだったのに、わが身の自由を実感し、中学・高校と没頭した体育会系クラブへの所属に心が動いてしまいました。ところが当時の同志社大学の体育会は、日本トップクラスで、とても活躍の場がないと考え、京都御所の広場で練習をしていたソフトボール同好会に入部しました。入部して初めて知ったのは、同好会と言いながら、ボールが革製でピッチャーの投法はウィンドミルかスリングショットの剛速球であること、監督は工学部所属の留年生ですが、選手では私と先輩の一人だけが工学部で、それ以外はマネージャーも含めて全員文系所属だということです。練習は御所広場と同志社香里グラウンドになり、春夏合宿や関西リーグ・全日本大学選手権などの公式戦や練習試合も沢山あります。クラブ以外の残る時間で、飲食店と家庭教師のアルバイト・下宿でのメンバーとの連夜の麻雀やイベントなどへの参加で、気が付けば再度自由な時間が無い身

になっていました。追い打ちを掛けるように3回生では副主将になり、その年に同好会から体育会に昇格(試験期間)してさらに勉学から遠ざかり、3回生での取得単位が不足して、留年になってしまいました。

卒業をかけ、最後の年だけはクラブのことを忘れ、研究室中心の生活に没頭しました。研究室で新たな世界と素晴らしい人たちに巡り合いました。あっという間に時が過ぎ、1981年に同志社を卒業し、指導教授の田坂明政先生の推薦もあり、フッ素関連の会社に奉職し、早くも35年の歳月が流れました。最初の20年余りは工場勤務、その後、中国合弁会社(浙江森美化工有限公司)設立に加わり、日本側代表としてプラント建設・品質管理・運営等を行いました。中国地方政府・合弁相手や現地の方々との出会いと交流の経験は、幸運なことに、私に未知の世界を切り開いてくれました。帰国後、製造、技術開発などの当社の主要な部門を経験して、現在は営業職をしています。自分が今に至った原動力は一見無駄と思える、人より少し長い時間を完全燃焼し得る場所を与えてくれ、尚且つ、その我儘な自分を自然体で受け入れてくれた同志社にあると確信しています。

諸先輩方が言われますように、“同志社を卒業して時間が経てば経つほどそのことに感謝するようになる。”とは、まったくの至言であると実感する今日この頃です。

## 同志社技術士会の活動状況について

同志社技術士会 世話役 山田 稔  
1976年 機械工学第二学科卒 木枝ゼミ

本会は、同志社大学出身者で、技術士、または技術士補の資格を有する人の集まりです。平成24年3月24日、同志社大学今出川キャンパスに有志4名（末廣氏、松岡氏、石田氏、山田）が集まり、設立方針を確認、その後「初顔合せの会」（設立会議）、「懇親会」等を開催し、会員は現在19名となっています。

今年度は、母校同志社大学との連携を推進すべく、本会会員で理工学部の嘱託講師をされている牛田氏の仲介で、同事務室の石田係長と面談し、本会の活動主旨をご説明したところ、京田辺キャンパスでの開催を快諾いただき、7月9日に開催する運びとなりました。

開催当日は、雨の散らつく蒸し暑い日でしたが、本会から11名が出席し、大学からは林田理工学部長を筆頭に、理工学部土屋教授、同増田教授、同事務室の石田氏、亘氏にご参加いただきました。

亘係長さんの引率で、ローム記念館、京田辺会堂、ラーネッド図書館等を案内頂き、米国留学生の事前授業、及び環境システム学科 環境保全・防災科学研究室（増田研究室）での津波等シミュレーション実演を見学させていただきました。

林田理工学部長との意見交換では、大学教育において本会会員が貢献できる事項のご提示をいただき、本会会員の貢献の分野・余地のある事を確認すると共に、本会から同志社出身技術士の積極的な活用をお願いしました。

【連絡先：山田 稔 E-mail:mickyama802@yahoo.co.jp Tel:080-8948-5956】

その後、本会与大学合同の懇親会が催され、同志社大学発展に資する議論等で盛り上がり、大変有意義な時を過ごすことができました。

今後は両者親密に連携しながら、母校同志社大学の発展のため、大学が必要とされる分野につき、各技術士が実業界で経験し、取得した高度な専門的応用能力を用いて、本学学生の教育に資するよう貢献していきたいと考えています。

最後に本会発展のためには、会員の拡大が重要であり、技術士等の資格を有する方の入会を募ります。入会希望者は下記までご連絡ください。女性技術士は大歓迎です。



林田理工学部長意見交換会



大学正門での集合写真

## 昭和40年電気工学科卒業『50+1』年同窓会

倉田紘一郎  
1967年 電気工学専攻大学院前期課程修了 元木ゼミ

「久しぶり、元気だった?」「……?」「〇〇君だよ」「そうだよ」「頭は白くなったが、昔の面影が残っているのですぐ分かったよ」こんな会話があちこちで波紋の起点となり、やがて幾つかの輪が一つとなって、同窓会前の記念撮影時には出席者全員が学生時代にタイムスリップしていました。34名の参加者の盛り上がった雰囲気の中、会場は今出川キャンパスが一望できる寒梅館7階に於いて、自然な流れで、卒業『50+1』年同窓会がスタートしました。（卒業50年、同志社大学創立140年の節目の去年に開催できなかったのが少し残念でした）

会は物故者への黙祷で哀悼の誠を捧げ、遠方出席者による乾杯の音頭で宴会が始まりました。料理とアルコールが進むにつれ、完全に50年前の学生時代に戻り、ワイワイ、ガヤガヤと会話が弾み、賑やかで、参加者の近況報告が聞き取りづらい状態となりました。

盛り上がりが高潮に達し、2時間半の宴会もアツという間に過ぎ、カレッジソングの斉唱で幕を閉じ、元気な姿での再会を約束しました。再見（サイチェン）!

節目の同窓会として「欠席者の近況報告」、「同窓生の名簿（住所・電話）」を記載した冊子と同志社マーク入りのシャープペン、ボールペン等の同志社グッズを記念品としました。

また同窓会の範囲を超えていますが、参加者に同志社校友会の「熊本復興寄付」活動の趣旨に賛同を頂き、寄付を募りました。後日皆様の善意を「電気工学科昭和40年卒業生」として、校友会指定の郵便振込口座に振込み、熊本の皆様にお届けしたことを本誌をお借りし、ご報告させていただきます。有難うございました。





## 同志社大学工学部機械系学科同期会

世話人代表 卜部美和  
1972年 機械工学第一学科卒 網島ゼミ文責 倉本佳男  
1974年 機械工学専攻大学院前期課程修了 網島ゼミ

同志社大学工学部機械系学科同期会が平成28年7月23日(土)に開催されました。

恩師の先生方もご高齢であります。95歳の網島先生を筆頭に原先生、小林先生の、元気な姿を見ることが出来ました。この会は、68年入学の工学部機械第一・第二学科のメンバー約180名を対象に開催されており今回で6回目となります。卒業年度72年が学生運動の最も盛んな時期にあり卒業式も中止され、その後大学の配慮で2000年に改めて卒業式が開催された学年でもあります。68年入学メンバーの有志が集まり第一回同期会を1990年に京都タワーホテルにて開催し、約5年毎の同期会を恩師の先生方にも参加頂き昔の思い出と恩師への感謝の集いを開催して来ました。同期会の開催されない年は68七夕会を同期メンバーだけで開催しています。今回

の同期会も68七夕会も卒業後約44年にもなり、多くの方が第一線からリタイアされてきたこともあり、これから参加者が増えると同時に人生を全うする方も居られるようにも感じております。同期会は、今年で幕を降ろす予定ですが、これからの残りの人生を楽しくする会として同期会の開催されない年に開催して来た68七夕会を継続して来年の7月30日(日)に開催することで会  
は終演しました。



平成28年7月23日同窓会 寒梅館

【同期会のホームページ <http://dkk68a.sakura.ne.jp/>】

## 「先生お元気ですか」

元工学部長  
工学部同窓会 初代会長 戸高敏之

同志社大学に46年間勤めさせていただきましたが、この間、卒業生の皆様には多大のご支援・ご協力をいただきました。特に、学生部長時代には12年次の田辺校地移転、工学部長時代には工学部統合整備事業に携わって事業を推進しましたが、その際に、多くの企業、校友の皆様にも経済的にもご支援いただき統合移転、整備事業を成し遂げることができました。心より感謝いたしております。

定年退職してから既に7年を越えましたが、多くの卒業生が就職され世界的規模で事業を展開していたいくつかの企業が苦戦している報道が、ここ数年多くなっており、心を痛めています。このような社会情勢の中では、世界をリードする有為な人材の育成が喫緊課題になっており、有為な人材を育成し社会に輩出する社会的使命がある大学にとって大きな課題を抱えることになっていると思います。

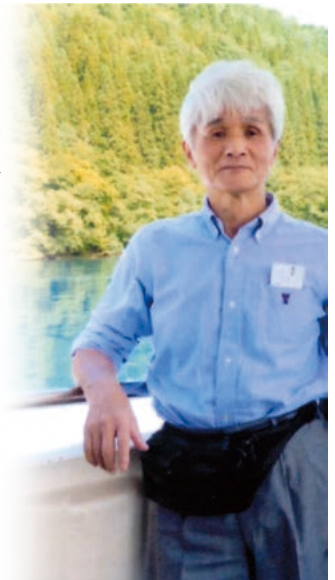
在職中は、教育研究活動に取組むと共に文部科学省の私立大学研究高度化推進委員会委員、日本學術振興会の未来開拓推進事業委員会理工部会委員や(独)メディア教育開発センター非常勤理事などとして、政府関係機関に働きかけ高等教育機関の教育研究環境整備充実に取り組みました。もちろん、同志社大学の教育・研究環境の充実にも貢献できたと思えます。

しかし、政府関係機関等の会議などへ出張のために大学を不在にすることが多く、当時の学生の皆様へは十分な指導や助言ができていなかったのではと反省しています。

退職後は山紫水明の故郷で晴耕雨読の生活をするを考えなくもありませんでしたが、故郷は既に限界集落への道を歩んでおり、故郷での活動は断念しました。

現在は、大学定年までの14年間、社団法人(現 公益法人)私立大学情報教育協会の会長として私立大学等の情報環境の整備とICTを活用した教育の改革に取り組んできた関係もあり、協会の名誉会員・顧問として、微力ながら高等教育の充実・発展のための事業推進に携わっています。

大学にとってこれからも厳しい状況が続くことが予想されますので、今後も、卒業生の皆さんの大学へのご支援・ご協力よろしくお願いたします。



&lt;人事&gt;

【お悔やみ】  
数理システム学科

押目 頼昌 教授

2016.3.21 永眠

&lt;叙勲受章&gt;

機械工学科・機械工学第二学科

坂口 一彦 名誉教授

平成28年春の叙勲「瑞宝中綬章」受章

この度のご受章、誠にありがとうございます。この輝く栄誉を心よりお祝い申し上げます。ご健康にご留意の上、なお一層ご活躍されますことを祈念致します。

**開催案内**

## 2016年度 理工会総会・リユニオン開催案内

2016年11月5日(土)京田辺キャンパス(同志社クローバー祭に併せて開催) <http://do-clover.net/outline/>

日時・場所: 2016年 **11月5日(土)**  
京田辺キャンパス

スケジュール: 10:00 ~ 10:30

総会(恵道館104教室)

11:00 ~ 11:20

学長講演(恵道館104教室) 公開講演会(来場自由)

講師: 松岡 敬 学長 (同志社大学理工学部教授)

演題: 『同志社創立150周年に向けた取り組み』

11:30 ~ 12:30

特別講演(恵道館104教室) 公開講演会(来場自由)

講師: 仙田 裕樹 氏 (同志社大学理工学部 環境システム学科 2012年度生)

演題: 『西ネパール遠征への道のり』

13:00 ~ 14:00

研究室訪問

14:30 ~ 16:30

懇親会 京田辺 Cafeteria(食堂・購買棟2階)

参加費: 2,000円(現役学生無料)

懇親会場に「女子会」および「博士情報交換会」の席を設けます。

※総会・リユニオンの最新情報は、理工会ホームページ (<http://dokonet.doshisha.ac.jp/>) にてご確認ください。

### <学術研究発表>

第54回同志社ハリス理化学研究所研究発表会・

2016年度学内研究センター合同シンポジウムの開催案内

開催日時: 2016年12月10日(土) 9:15~17:40

特別講演では、宇宙飛行士「土井隆雄」氏が「日本の有人宇宙活動」と題して講演される予定です。

理化学研究所及び先端複合材料、高機能微粒子研究センター、エネルギー変換研究センターなどからの研究成果の発表が行われます。

詳細は「同志社大学ハリス理化学研究所」のホームページをご覧ください。

ホームページ: <http://harris-riken.doshisha.ac.jp/>

TEL: 0774-65-6220 E-mail: [jt-riko@mail.doshisha.ac.jp](mailto:jt-riko@mail.doshisha.ac.jp)

### <先生・学生の活躍>

○「日本音響学会 2016 年春季研究発表会」において、松川沙弥果さん、角田歩さん(理工学研究科電気電子工学専攻)、奥谷晃久さん(生命医科学研究科医工学・医情報学専攻)が「学生優秀発表賞」を受賞。また、渡辺好章教授(生命医科学部医情報学科)と小山大介准教授(理工学部電気工学科)の共著論文が「佐藤論文賞」を受賞。

○小山大介准教授(理工学部電気工学科)が平成 28 年度科学技術分野の「文部科学大臣表彰若手科学者賞」を受賞。

○辻内伸好教授、伊藤彰人准教授(機械システム工学科)、明井政博さん(理工学研究科博士後期課程で機械工学専攻修了生)、山内貴之さん(博士前期課程で機械工学専攻修了生)らの論文が、「2015 年度の農業食料工学会論文賞(研究論文)」を受賞。

○「日本機械学会 関西学生会平成 27 年度学生員卒業研究発表講演会」において、高原一品さん(機械システム工学科)が、「Best Presentation Awards」を受賞。

### <リエゾンフェア>

2016年度同志社大学リエゾンフェア 《事前申込みが必要です》

開催日時: 2016年12月2日(金) 13:00~17:00

産学連携を目指す企業の方々に、理工学部等の研究者の研究活動や研究シーズを講演、ポスター展示でわかり易く紹介いたします。

詳細については、10月上旬に「同志社大学リエゾンオフィス」のホームページでご案内いたします。

リエゾンオフィスホームページ: <http://liaison.doshisha.ac.jp/>

TEL: 0774-65-6223

E-mail: [jt-liais@mail.doshisha.ac.jp](mailto:jt-liais@mail.doshisha.ac.jp)

○第 42 回錯体化学国際会議にて辻内伸好教授、伊藤彰人准教授(機械システム工学科)、明井政博さん(理工学研究科博士後期課程で機械工学専攻修了生)、山内貴之さん(博士前期課程で機械工学専攻修了生)らの論文が、「2015 年度の農業食料工学会論文賞(研究論文)」を受賞。櫻井克俊さん(理工学研究科)がポスター賞を受賞。

○人見稷教授(理工学部機能分子・生命化学科)が「平成 28 年度長瀬研究振興賞」を受賞。

○「化学工学会第 81 年会」において、下坂厚子先生(理工学部化学システム創成工学科 粉体工学研究室実験講師)が、「化学工学会賞女性賞」を受賞。

○第 62 回高分子研究発表会にて西村慎之介さん(理工学研究科)がエクセレントポスター賞を受賞。

### <事務局だより> DoKoネットの発送について

会費納付書については、下記分類でお送りしておりますので、ご了承ください。また、裏面に、あなた様と同年卒業の方で、ご連絡先不明の方のリストを掲載しております。もし、ご連絡先をご存知の方がおられましたら、同封の FAX 用紙にて、事務局までお知らせください。ご本人様にご連絡の上、名簿への記載のご確認をさせていただきます。

本年度同窓会費未納の方

納付書を同封いたしましたので、会費(2,000円)の納入にご協力をお願い申し上げます。

本年度同窓会費をお納め頂いた方

過日は同窓会費をお納めくださり、誠に有難うございました。今回は納付書を同封していません。但し、本会への寄付は随時受け付けておりますので、何かの機会にご検討賜りますよう、お願い申し上げます。

#### 卒業後 50 年以上の方

同窓会会則により、卒業後 50 年を経過された会員へは会費を請求しないこととなりましたので、納付書は同封していません。但し、本会への寄付は随時受け付けておりますので、何かの機会にご検討賜りますよう、お願い申し上げます。

#### 会費・寄付金の納付先

ゆうちょ銀行: 口座番号 00990-0-151193

名 義: 同志社大学理工学部同窓会

専用の納付書ご希望の方は、事務局までご連絡いただければ送付させていただきます。

理工会へのご質問、ご意見あるいは本冊子「DoKo ネット」へのご投稿をお待ちしております。理工会事務局までご連絡、ご投稿下さい。なお、DoKo ネットの発送につきましては、大口発送元である株式会社エルネットを発送代行として発送させていただきました。

### 同志社大学 理工学会・理工会(理工学部同窓会)

ホームページアドレス

<http://dokonet.doshisha.ac.jp/>

同志社大学ホームページアドレス

<http://www.doshisha.ac.jp/>



### 同志社大学理工学部同窓会報—DoKo ネット24号

2016年9月23日 発行

発行者: 橋詰源治

編集委員: 森本護・藤井繁信・林田弘・坂口富規・大窪和也・大枝正人

〒610-0321 京田辺市多々羅都谷 1-3 同志社大学理工学部内

理工会(理工学部同窓会)事務局 TEL: 0774-65-6219 FAX: 0774-65-6850

東京支部事務局(東京校友会内) TEL: 03-5579-9728 FAX: 03-5579-9729

Eメールアドレス [dkkt@doshisha-tokyo-alumni.jp](mailto:dkkt@doshisha-tokyo-alumni.jp)

印刷: 大枝印刷株式会社

TEL: 06-6381-3395 FAX: 06-6318-2000